

千葉県立野田看護専門学校  
学 校 関 係 者 評 価 報 告 書

(令和 6 年度)

令和 7 年 5 月

学校関係者評価委員会

## 令和6年度 学校関係者評価報告書

### I 学校関係者評価委員会が実施した学校評価について

千葉県立野田看護専門学校では、「令和6年度自己点検・自己評価結果概要」をもとに、学校関係者評価を実施したので以下のとおり報告します。

#### 1. 実施年月日

令和7年2月27日（木）10:00～11:30

#### 2. 学校関係者評価委員会委員 9名のうち1名書面参加

|   |             |    |
|---|-------------|----|
| 1 | 近隣教育機関      | 1名 |
| 2 | 実習施設        | 2名 |
| 3 | 非常勤講師       | 1名 |
| 4 | 看護職能団体      | 1名 |
| 5 | 地域          | 2名 |
| 6 | 第一看護学科卒業生代表 | 1名 |
| 7 | 第二看護学科卒業生代表 | 1名 |

#### 3. 評価内容

##### 1) 自己点検評価の結果

評価項目Ⅰ 教育理念・教育目的・教育目標

評価項目Ⅱ 教育課程

評価項目Ⅲ 教育活動

評価項目Ⅳ 経営管理

評価項目Ⅴ 入学

評価項目Ⅵ 卒業・就業・進学

評価項目Ⅶ 地域社会

評価項目Ⅷ 研究

##### 2) 「授業評価」について

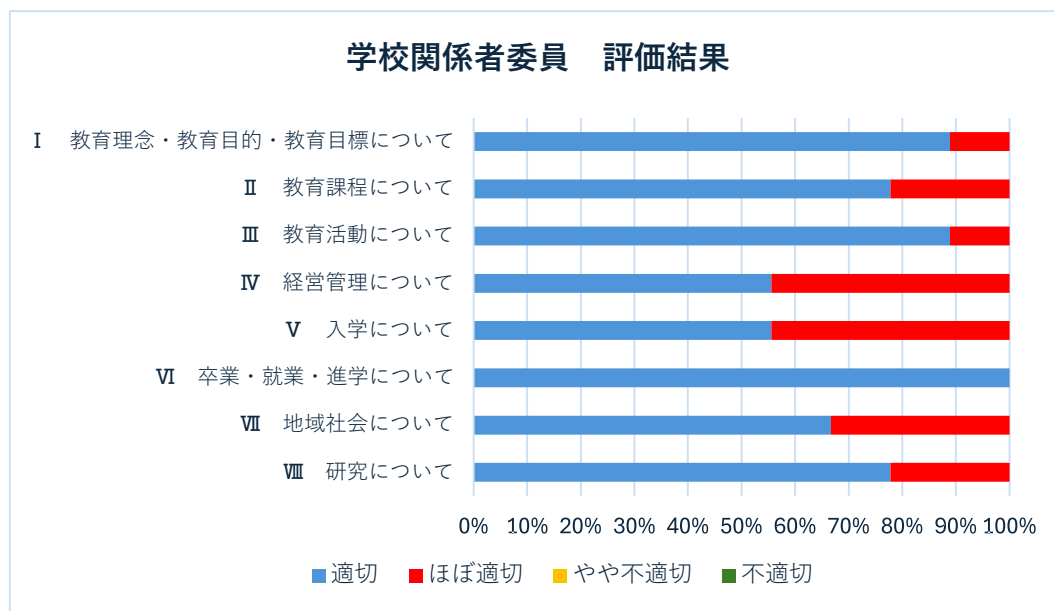
##### 3) 「卒業生支援」について

##### 4) ハラスメント防止対策の取り組みについて

## II 学校関係者評価結果

### 1. 総合評価

自己点検・自己評価結果の客観性・透明性を高めるために学校関係者に評価の妥当性について4段階（適切、ほぼ適切、やや不適切、不適切）で評価をいただきました。大項目ごとの評価は、適切あるいはほぼ適切との評価をいただきました。



### 2. 評価項目ごとの評価の妥当性について（4段階評価）

#### （1）評価項目Ⅰ 教育理念・教育目的・教育目標

学校関係者評価委員の評価は「適切」「ほぼ適切」であり、平均評価は3.9でした。

##### 【評価委員からの主な意見】

- 平時の授業態度から学生には教育理念及び目標は理解されていると思われます。卒業時における看護師としての資質も十分に持ち合わせていると思います。これは日頃からの教職員の指導によるものと考えます。
- 学校の方針が揺らがないために重要な項目のポイントが高いこと、upしたことは素晴らしいと思いました。
- 理念・目標の浸透のために、教員の皆さんが意識していることは伝わってきます。継続することで学生も意識し、浸透していくと感じました。
- 教員の教育理念・目標に対する意識の向上が伺えます。教員経験による差が縮まるよう引き続き御尽力いただき、学校の特性がさらに学生へ浸透できるよう期待しています。

#### （2）評価項目Ⅱ 教育課程

学校関係者評価委員の評価は「適切」「ほぼ適切」であり、平均評価は3.8でした。

##### 【評価委員からの主な意見】

- 新カリキュラムでの教育は、構築されているようですが、実習環境・指導体制の構築に苦慮されていると感じました。
- 新カリキュラムへの体制へ移行する際の改善がみられているように思われます。病棟の選択などは実習先の都合もあることから、学習環境の評価が低くなるのは仕方ないことかもしれません。今後の改善点とすれば良いものと考えます。
- 新カリキュラムへの対応が適切に行えた結果だと思います。実習施設の確保はなかなか困難な状況とは思いますが、学生が有益な実習を行えるように調整していただきたいと思います。

### 【学校の取り組み】

看護基礎教育の第5次カリキュラム改正により、看護職者に求められる能力として、対象者の尊厳と権利を擁護する能力、地域で生活する対象者を理解する能力、臨床判断能力、多職種と連携・協働する能力の育成が重要視されています。今年度、第一看護学科及び第二看護学の全学年が新カリキュラムとなり、前述の能力育成に取り組んできました。今後も、学生個人の特性を踏まえながら、臨床施設側と連携し、日々の教育活動に取り組んで参ります。

### (3) 評価項目Ⅲ 教育活動

学校関係者評価委員の評価は「適切」「ほぼ適切」であり、平均評価は3.9でした。

#### 【評価委員からの主な意見】

- 不合格者の学生への対話を通じての介入はとても良いと感じた。
- 学生への個別指導や対応などに非常に尽力されていると思います。また、外部講師や実習施設の変更や調整等の対応にも尽力されていると思います。
- 教育活動・指導も良くされていると思います。ただ少ない専任講師のため、時間割の調整や、1科目の担当講師の少人数化が難しい点があるかと思います。今後非常勤講師の選定の課題点と思われます。
- 教員間の情報共有と各教員の教育に対する意識の向上から得られた結果だと思います。外部講師のスケジュールや過密業務による調整が困難とは思いますが、その中でも最善の対応が行えているのではと推察します。

### (4) 評価項目Ⅳ 経営管理

学校関係者評価委員の評価は「適切」「ほぼ適切」であり、平均評価は3.6でした。

#### 【評価委員からの主な意見】

- 校舎や設備の老朽化については、修繕計画を継続しながら対応するしかないと思います。
- 施設の老朽化については、費用が掛かるためもっとアピールしたほうが良い。
- 県からの予算で賄われるところであるが、予算内で良く維持されていると思います。予算配分が適切に行われているものと考えます。コストが高い建物の維持は費用効果の良い所から実行することが最良かと思います。
- 教員の確保・育成が現場から見ていると困難な様子がうかがえる。先生の入替わりもあるように見え、臨床現場で発生した事象が現場で判断できず、学校に持ち帰り検討が増えていると感じる。ハード面は変えていくことが難しい中で、どのように学校の特徴を出していくかは課題と感じる。
- 学生の自主活動が、コロナ禍以降停滞していますが、看護職になる人達なので、感染対策をしたうえで活動できるようになると良いと思いました。
- ソフト面、ハード面とも現状における対応と次年度に向けた見直しも出来ており、今後の改善に期待します。若年層に限らずメンタル不調者は増えており、その対応が急務とも思われます。

### 【学校の取り組み】

#### 1) 施設の老朽化

平成8年の設立であり、現在、築30年が経過していることから、全体的に老朽化が顕著となっています。今年度は、倒木対策として校内の木を一部伐採した。また、雨漏り箇所の補強工事を実施しました。今後も、学生の安全面を第一優先に考え対応していきます。

#### 2) 教員の確保について

長期研修(教員養成講習会・教務主任養成講習会)に参加する教員の代替として臨時任用職員の採用を計画的に実施しています。また、業務内でDX化を図り、業務改善に取り組んでいます。

### (5) 評価項目Ⅴ 入学

学校関係者評価委員の評価は「適切」「ほぼ適切」であり、平均評価は3.6でした。

【評価委員からの主な意見】

- 社会人は現役世代より意欲が高く、授業態度も良く成績も良い状態です。看護師の志望者は高いと思いますが、大卒や社会人卒を設けるなど選抜方法、選抜時期(早める)などを再検討するのも良いかと考えます。
- 看護大学の増加、大学志向、少子化の影響で看護専門学校の学生確保は、全国的な課題です。そのような状況において、入学試験の時期の変更や社会人入学の科目の見直し等、対策案を講じていることが分かりました。成果を期待します。
- いったん入学したとしても、違う方向を選ぶ学生もいる。そういった学生への対応を考えではどうか。例えば大学の後期入学の導入などはどうか。
- 学生確保に苦慮する中で、公立学校であるため学校独自の努力だけでは難しいと感じます。看護師人材の確保や啓蒙活動としては、県や看護協会を含めた活動も必要だと感じます。
- 少子化、大学を選択している現状を考えると広範囲に活動をするにも限界があるため、入学対象者をどのように考えるかは県も交えて検討が必要ではないでしょうか。
- 第一看護学科については、大学を卒業してから看護師を希望する学生も増えてきている中、学びの関連性のある所から発掘するのも一つの方法だと感じている。
- 募集要項の変更や間口の拡大により学力低下や県内就職者の減少等も懸念されるため、なかなか難しい問題と思います。
- 定員割れしている現状に驚いた。何とか生徒を確保できるような取り組みを期待したい。
- ホームページの活用、Instagramなどの活用、看護の仕事の魅力などをアピールして、学校の魅力を発信してほしい。

【学校の取り組み】

募集要件は、看護師になりたいという意欲がある人を入学させたいと考えています。現状として社会人の入学も増えています。そのため今後は、入学試験の時期および社会人入学の試験科目の見直しや社会人卒を設けるなど、受験生確保のための対策を検討していく必要があると認識しています。

第二看護学科(2年課程)については、准看護師数の減少と准看護師免許取得後、進学する学生が減っている現状があります。今後、千葉県としてどうしていくのか検討していく時期だと認識しています。

(6) 評価項目Ⅵ 卒業・就業・進学

学校関係者評価委員の評価は「適切」であり、平均評価は4.0でした。

【評価委員からの主な意見】

- 千葉県内では大学数が増えているが、大学卒の県内就職率は低い状態にある。専門学校からの就職が非常に重要になっており、県立である当校からの就職も非常に大切になってくる。
- 県立の学校であり、第一看護学科の就職率が県内100%は素晴らしいと思った。
- 学生への個別対応に尽力されていると感じます。退学人数については、学生個別の背景による要因もあると思います。
- 第二看護学科は、入学対象者が減り他県からの入学が増えれば、県外就職が増えるのはやむを得ないことだと考える。その中で県内に留まるよう関わっていただけていると感じる。

(7) 評価項目Ⅶ 地域社会

学校関係者評価委員の評価は「適切」「やや適切」であり、平均評価は3.7でした。

【評価委員からの主な意見】

- 学校行事や地域イベントでのアピールは重要だと思いますが、職員の負担が増すことも考えられるため調整しながら実施できることを期待します。
- 桂祭が無事開催できたことは良かった。コロナ禍から脱し、桂祭の他に今後の地域との協力関係をどのように築いていくのか検討が必要と考える。
- 災害時の地域の避難所としての機能の担う場所でもあり、地域との協力関係は重要と思われる。消費期限のある備蓄品などがあれば、桂祭などの学校開放時に配布等を行い、より多くの市民との交流を設けることは必要かと思う。

- コロナ禍も過去のものとなったので、「地域社会との関わり」を向上できるよう可能な範囲で拡大して頂きたい。
- 引き続き桂祭等で地域へアピールし、生徒等の募集の増加になればと思う。

#### (8) 評価項目Ⅷ 研究

学校関係者評価委員の評価は「適切」「やや適切」であり、平均評価は3.8でした。

##### 【評価委員からの主な意見】

- 先生方が、計画的に学内外の研修に参加できるようになったことは、生涯学習の視点からも素晴らしいと思います。職場環境の整備として、先生方の負担軽減に取り組んだ成果であると思いました。
- 臨時職員の採用により教員講習会、研修に参加することができ、教員が学べる環境を作ることへの影響もあるので継続していけるように職員確保が必要と考える。
- 教員は教育と研究を行う職種になりますが、現場の教育が最優先となります。研究予算・時間の低下は研究活動の低下につながります。評価が低くなるのは当然かと思います。
- 教員業務過多の軽減と職場環境の更なる改善により、教員の自己研鑽が充実できるよう切に祈っております。

#### 3. 授業評価について(自由記載)

- 専任教員と非常勤講師の評価項目が違いますが、類似項目は同じ表現のほうが答えやすいと思いました。
- 臨地実習評価の「全体として、充実した実習だった」のポイントが高いことで、有意義な実習ができるように指導してくださっていることが分かりました。
- 非常勤講師は、毎年同様の方が行っているのでしょうか。授業依頼の際に簡単な内容は記載されているが、シラバスがわからず担当している場合がある。大幅にずれることはないと思うが、シラバスを配布する、教育目的を伝えること毎年でなくてもあったほうが目指しているものに近づけるのではないかと考える。もし、どのような授業が満足度、わかりやすさが増す・・・などの学生の声があるのなら講師依頼の際に説明として加えてはどうか。
- 評価点が3.3(1項目)から3.8(1項目)であり、まとめにあるように概ね学生の学習目標は達成できていると思います。評点の低かった項目は1看と2看とで差があるので、その理由を明らかにし改善できる点があれば改善を行うと良いかと思います。
- アンケートの電子化でペーパーレス化と集計時間などの時間の短縮化が出来て良い方向にあるかと思います。次年度の課題に挙がっていることも踏まえ、アンケートを回収するプログラムを変更したら良いのかと思いました。
- アンケートやレポートのデジタル化、ペーパーレス化は働き方、学び方の改善につながるので引き続き推進をお願いします。
- 指導者の教育力向上も実践されているので継続していただければと思います。
- 両学科を比較すると、第二看護学科の方が、評価が低いようですが、学科の特徴による許容範囲と思います。第一看護学科は押しなべて高評価なので、総じて学生の授業に対する満足度の高さが伺えます。専任教員と臨地実習の評価結果回収率が昨年度より下降してしまったことが気になりますが、実施時期や学生へのアナウンスを再検討して改善できるよう期待します。
- 各項目もポイントは上昇している。臨地実習で学生が主体的に行動できるような能力を支援していただけると、とても看護師人生に役立つと考える。

#### 4. 卒業生支援について(自由記載)

- 卒業生にも手厚い支援がされていると思いました。ホームカミングデイがあることで、就業継続に繋がったケースもあると推察します。2回目以降は、卒業生たちで運営できると主体的な活動になりより良いと思いました。
- 看護協会のヘルシーワークプレイス相談窓口についても広報に努め、卒業生の支援に繋がるように

充実させていきたいと思います。

- ホームカミングデイは、同級生や先生方と交流の時間を持つことで、お互いの近況や悩みを共有することができる機会であり、継続して欲しいと思います。また、卒業生の相談窓口の設置も気軽に相談できる環境として素晴らしいと思いますが、対応する教員の人員確保や負担を考えると課題も多いと感じます。
- 学校で開催されるホームカミングデイは卒業生に就労を支援する機会となっていると感じる。参加する卒業生を支援できるよう、施設にも行事案内をいただいている。施設側も協力し支援が必要と考える。開催時期は、1年目の7月とあるが、可能ならばそれは学校に負担をことにもなるのですが、2年目にも何か集まれる場があると互いの成長や悩みを共有できる機会になると思う。
- ホームカミングデイに関することを各個人への通知方法も学校の負担にならない方法で卒業5年目ぐらいまで通知するのも良いかと思いますが、基本的には早めに学校のHP上に掲載すれば良いことかと思っています。特に卒後1年目ないし2年目の「相談者」の対応が重要かと思っています。相談しやすい環境づくりが必要だと思います。担任だった先生が卒後1年ないし2年間在職しておられると、より相談しやすいかと思いました。
- 特別支援学校でも定着(卒後)支援を行っています。卒後3年は学校が中心で徐々に地域へ引き継ぐシステムです。機構の「ホームカミングデイ」の取り組みもとても良いと思いました。継続を前提に更なる満足度向上を目指して、内容・回数等を検討していただきたい。
- ホームカミングデイは、もちろん参加の可否はあるでしょうが、現実とのギャップや無力感等を感じ始める時期で有効に行えていると思います。また、悩みを気軽に相談できる環境作りは現況に応じて整えられており、卒業生を支援する体制は行えていると思います、個人の特性も生活背景も多様化する時代での教員としての対応は大変とは思いますが、今後とも支援を継続していただけたらと思います。
- 入職後の相談件数が増えている現状があり、ホームカミングデイの時期と複数回の実施があれば卒業生のストレス緩和や辞職率の減少になるのではないかと考える。

## 5. ハラスメント防止対策について(自由記載)

- ハラスメント意識調査に取り組まれたことに敬意を表したいと思います。衝撃的な結果でしたが、それを踏まえて教育を実践していくことで、双方にとって良い関係や状況になると良いと思いました。
- 学生のアンケート結果からハラスメントと認識する項目に驚きましたが、ハラスメントは、双方の認識の違いにより起こることもあります。対応に苦慮されていると思いますが、認識の違いが大きいことを理解しながら対応する必要性を感じました。
- ハラスメント意識調査がどのような調査用紙を元におこなわれたかが理解しにくかった。「学校で単位が不可(不合格)」「試験が難しい」「実習の評価が不可(不合格)になる」をハラスメントととらえる学生もいるのだということが分かった。それは、教育上必要の事もあるようにも考えられ、正しいハラスメント教育が必要だと感じた。
- 質問内容が多岐にわたっているので良いかと思っています。質問項目は十分かと思いました。
- 「試験問題が難関である。」が学生にとってハラスメントであるという回答には驚いた。試験直後に試験問題の解説を行うと問題をより理解できるし、再試験への意欲も高まると思うので、ハラスメントと思う学生も少なくなるものと思う。
- 「実習評価」は評価基準が主観的であるため、学生からは評価を信じない意識があるのでハラスメントと思う学生がいるかと考える。評価基準を明確にし、採点者同士で意見を統一し、これらを学生に明示することで不信感が軽減されると思われる。
- 「髪の毛の色」では指導されているかと思いますが、病んでいる患者が不快感を持たない身なりが重要であることを認識してもらう必要があるかと思っています。特に現役生は臨床に出るまではどんな身なりでも良いのかと思います。入れ墨は困りますが…。
- 何をもってハラスメントとするかは各個人の捉え方によるので、全ての人が平等を感じる対応は非常に困難と思いますが、教員は其中でも努力されていると思います。学生の言う授業評価等見えないことに対する不満はわかりますが、自己評価と他者評価に違いがあることは当然であることも理

解してほしいと思います。勿論、学校側にもその認識が必要ですが、最善と考える対応はできていると思います。

■ハラスメントについては、千葉県看護協会に相談窓口もあるため、周知していただきたい。

おわりに

各委員の皆様からは、多くの意見と共に励ましの言葉もいただきました。今回の意見を参考に、教育活動と学校運営に取り組んでまいります。

今後も、学校関係者評価会議を開催し、外部の意見を取り入れながら、学校運営全体の質の向上を図ってまいります。